

デジタル化人材育成

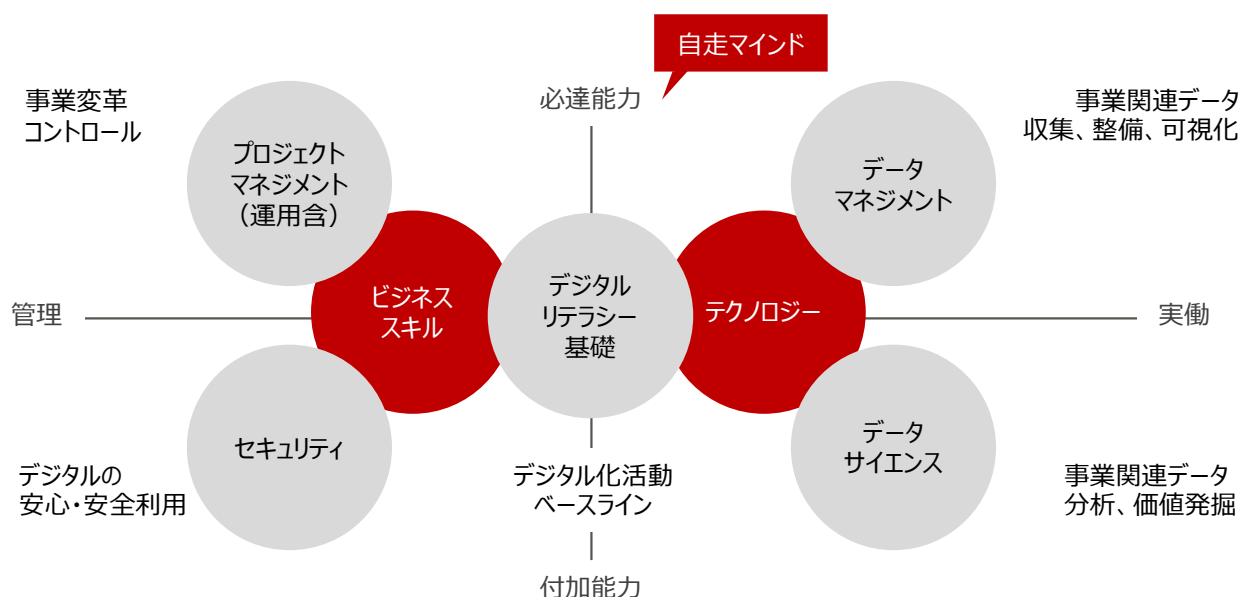
デジタル化を円滑に推進するため、不足している知識や能力、及びベースとなるデジタルリテラシーを強化するべく、プロジェクト活動と並行した人材育成を実施しました。

目指すべき人材像



各社共通の人材像として
「自社起点で、IT企画-設計-開発（導入）を手掛けていく、プログラマブルなDX推進可能で、情報感度の高い人材。特に、ITベンダー含む社内外のステークホルダーマネジメントが重要」を設定。
この人材像に必要な開発能力と、実際に開催した教育メニューをご紹介します。

開発能力



教育メニュー

No	カテゴリ	学習名	概要
1	デジタルリテラシー	オリエンテーション	本プロジェクトにおける学習の全体像と学び方を理解する。
2	デジタルリテラシー	IT基礎	ITパスポート資格取得からデジタルリテラシー広範の知識を保有する。
3	デジタルリテラシー	ITインフラ基礎	サーバ-システム-ネットワーク-データが個々に持つ機能と関係性の可視化を行う。
4	デジタルリテラシー	グループウェア利用の基礎	コミュニケーションの基盤となるグループウェアが持つ機能を理解する。(スケジュール、チャット、掲示板、社内ポータル等)
5	デジタルリテラシー	クラウドサービス連携の基礎	便利なクラウドサービス単体の機能だけでなく、連携して利用するメリットを理解する。
6	データマネジメント	データ保全概説	データ資産から効果的に価値を引き出すためのマネジメント方法を理解する。

No	カテゴリ	学習名	概要
7	データマネジメント	Excel 基本操作	Excelの基本機能を利用して集計、グラフ化、自動化を行う。
8	データマネジメント	Excel VBA	Excel VBAを利用してExcelマクロの機能を最大限活用するための基礎知識を理解する。
9	データマネジメント	IoT概説	センサーをネットワークに接続し、収集・蓄積したデータから新たな価値や業務効率化につなげるプロセスや手法を理解する。
10	データマネジメント	API データ取得	APIを利用してデータ収集するための手法やポイントを理解する。
11	データマネジメント	AI-OCR データ取得	AI-OCRを利用して紙の帳票類をデータ化するための作業フローやポイントを理解する。
12	データサイエンス	Excel前処理	ローデータ等をデータ分析するために整備するための手法やポイント理解する。
13	データサイエンス	Excel分析	Excelを活用したデータ加工・分析の代表的な手法を活用して、分析作業を行う。 ※自社テーマでの実践可
14	データサイエンス	BIツール活用	PowerBIの基本機能を利用してデータのビジュアライズ、分析を行う。
15	データサイエンス	AI活用（画像、テキスト、音声等）	クラウドサービスを活用した機械学習の活用、及び組み合わせ最適化を行う。
16	データサイエンス	デジタルマーケティング	デジタルマーケティングから顧客インサイトにリーチする。 ※自社テーマでの実践可
17	テクノロジー	ノーコード、ローコード開発	プログラム言語を利用しない、もしくはほぼ利用しなくアプリケーションの開発を行う。 ※自社テーマでの実践可
18	テクノロジー	HTML	ホームページの構築、運用に欠かせないHTMLの基礎知識を理解する。
19	テクノロジー	Illustrator	イラストの作成に最適なツールであるイラストレーターの基本操作を理解する。
20	テクノロジー	RPA	PC上の業務を効率化するためのRPAツールの基本操作を理解する。
21	テクノロジー	Python	アプリ開発や機械学習分野での利用が顕著なプログラミング言語Pythonを利用する際の基礎知識を理解する。
22	テクノロジー	SQL	データベースを操作するためのプログラミング言語SQLを利用する際の基礎知識を理解する。
23	テクノロジー	3DCAD	設計や技術ドキュメントの作成に伴う手作業での作図を支援する3DCADツールの基本操作を理解する。
24	プロジェクトマネジメント	業務定義書作成/サービス選定	業務とシステムのつながりを洗い出し、最適化した後、ドキュメント化する。
25	プロジェクトマネジメント	新サービス/システム導入/費用対効果	新規サービスの導入プロセスと留意点を併せて理解する。RFI、RFPの基礎情報としても取り扱う。
26	プロジェクトマネジメント	システム再構築	主に、老朽化した社内システムを刷新し、業務のボトルネックを解消するための活動プロセスと留意点を理解する。
27	プロジェクトマネジメント	製品開発（デジタル活用）	IoT、AR、VR等のデジタル技術を製品開発に適用する。
28	プロジェクトマネジメント	PMBOK活用	「立上げ」「計画」「実行」「監視・コントロール」「終結」のすべてのプロセスを推進する。
29	プロジェクトマネジメント	ITIL活用	ITシステムのライフサイクルマネジメントを行う。
30	セキュリティ	情報セキュリティマネジメント	情報セキュリティに関する広範の知識を保有する。
31	セキュリティ	サイバーセキュリティ対策	サイバーセキュリティ分野の専門知識を保有する。情報処理安全確保支援士資格が該当。
32	ビジネススキル	全社教育	デジタル化促進のモチベーションを高め、プロジェクト活動への認知、理解を促す。
33	ビジネススキル	デジタル企画/デザイン思考	学習内容を総動員して、自社の課題解決または新規価値創出に向けたデジタル企画を立案する。
34	ビジネススキル	問題解決力	「問題発見」「問題分析」「原因分析」「解決策立案」「実行・検証」のすべてのプロセスを推進する。
35	ビジネススキル	創造力の強化	主要な発想手法を用いる、及び他者とのコラボレーションを通じて創造力を高める。
36	ビジネススキル	仮説検証力	デジタル化促進活動の基本行動である仮説検証の精度を高める。
37	ビジネススキル	自社教育計画立案	個と組織の成長を促すための教育計画を立案する。

1 オリエンテーション

本プロジェクトにおける学習の全体像と学び方を理解する。

PBL (Project-Based-Learning) の適用

プロジェクトとして集団活動を行い、課題解決を図ることで、人間力、個別スキル強化、探求力、チームマネジメント等を同時に学ぶ学習手法



各社個別のテーマに対し、個別の教育メニューを提供

- 「オリエンテーション① 学び方のスタイル」
- ・本事業の概要確認
 - ・デジタル化計画-実行と人材育成の関係性
 - ・人材育成スタイル
 - ・人材育成に欠かせない前提知識
 - ・デジタル化人材の育成に関する重要ポイント

- 「オリエンテーション② デジタルリテラシー基礎」
- ・デジタルリテラシーを高める理由
 - ・デジタル化による業務変動
 - ・デジタルとは何を指す
 - ・ハードウェアとソフトウェアの基礎知識
 - ・OS
 - ・ネットワーク
 - ・データベース
 - ・クラウド
 - ・デジタル技術のアーキテクチャ
 - ・IT導入・運用の流れ
 - ・セキュリティ

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

2 IT基礎

ITパスポート資格取得からデジタルリテラシー広範の知識を保有する。

大分類			中分類	
ストラテジ系	1	企業と法務	1	企業活動
			2	法務
	2	経営戦略	3	経営戦略マネジメント
			4	技術戦略マネジメント
			5	ビジネスインダストリ
	3	システム戦略	6	システム戦略
			7	システム企画
マネジメント系	4	開発技術	8	システム開発技術
			9	ソフトウェア開発管理技術
	5	プロジェクトマネジメント	10	プロジェクトマネジメント
テクノロジー系	6	サービスマネジメント	11	サービスマネジメント
			12	システム監査
	7	基礎理論	13	基礎理論
			14	アルゴリズムとプログラミング
			15	コンピュータ構成要素
	8	コンピュータシステム	16	システム構成要素
			17	ソフトウェア
			18	ハードウェア
9	技術要素	19	ヒューマンインターフェース	
		20	マルチメディア	
		21	データベース	
		22	ネットワーク	
		23	セキュリティ	

- 「ITパスポート試験対策講座」
- ・学習内容の全量チェック
 - ・苦手分野の抽出
 - ・ネットワーク、セキュリティが対象領域になりやすい
 - ・苦手分野を中心とした講座
 - ・過去問題を網羅的に出題したテスト実施と解説

研修時間：2時間×平均4回 [オンライン開催]
前提知識：特になし

- 「ITパスポート試験対策セット」
- ・ITパスポート試験の概要と出題傾向
 - ・学習前診断テスト 問題
 - ・試験の出題ポイント
 - ストラテジ系
 - マネジメント系
 - テクノロジー系
 - ・学習後診断テスト 問題
 - ・模擬テキスト

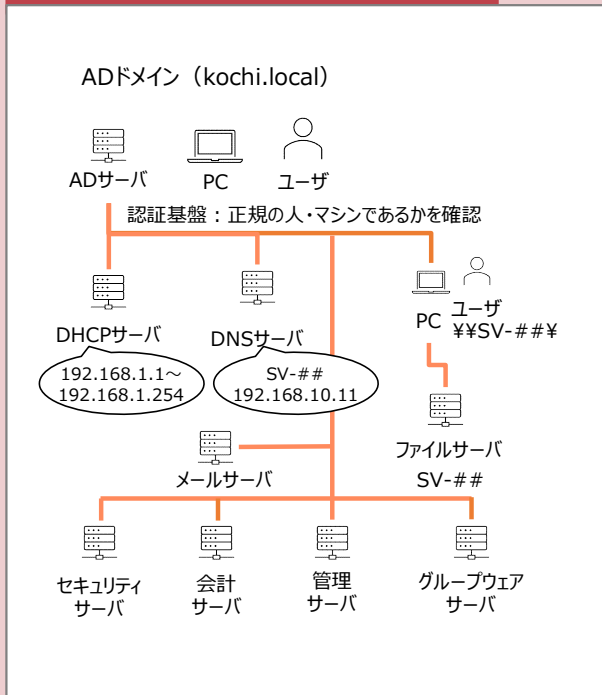
標準学習時間：50時間 [eラーニング、書籍]
前提知識：特に必要なし

※左はITパスポート資格 出題範囲

3 ITインフラ基礎

サーバ-システム-ネットワーク-データが個々に持つ機能と関係性の可視化を行う。

企業内ネットワーク例



「ITインフラの棚卸し/見える化」

- ・サーバ概要
 - サーバとは
 - クライアントとは主要機能
 - サーバの種類
 - 主要機能
- ・システム概要
 - 情報システムとは
 - 基幹系システム/情報系システム
 - 主要機能
- ・ネットワーク
 - ネットワークとは
 - LAN/WAN
 - インターネット/イントラネット
 - IPアドレス、サブネットマスク、MACアドレス (OSI参照モデル)
- ・データ
 - データ種別
 - データ設計
 - ER図
- ・自社ネットワークの可視化

研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

4 グループウェア利用の基礎

コミュニケーションの基盤となるグループウェアが持つ機能を理解する。（スケジュール、チャット、掲示板、社内ポータル等）

グループウェアの主要機能



「グループウェア概要」

- ・グループウェアとは
- ・主要機能
 - スケジュール
 - メール
 - チャット
 - オンラインミーティング
 - ストレージ
 - ワークフロー
 - 掲示板
 - 社内ポータルサイト
- ・操作体験
 - 主要機能操作
 - 共同利用/編集
 - 会議招集依頼 (オンラインミーティング予約、スケジュール入力、チャット等)
- ・管理者機能

研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]

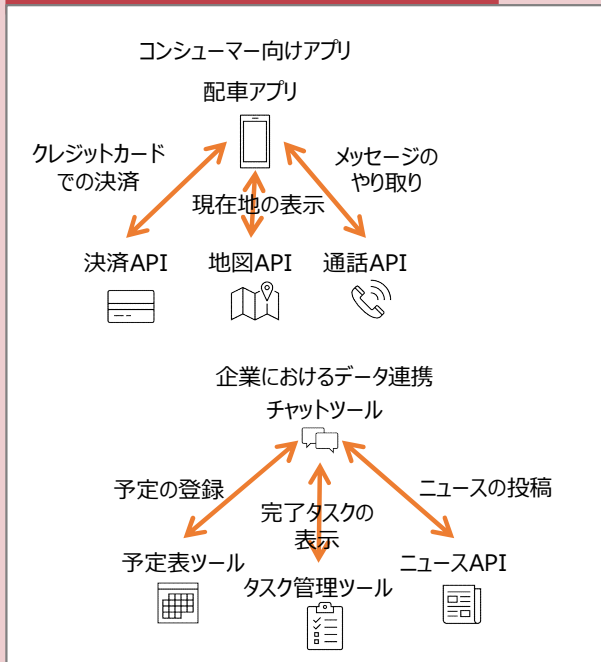
※理解度により時間変動

前提知識：特に必要なし

5 クラウドサービス連携の基礎

便利なクラウドサービス単体の機能だけでなく、連携して利用するメリットを理解する。

クラウドサービス連携の具体例



「クラウドサービス」

- ・クラウド概要
- SaaSサービス
- PaaSサービス
- IaaSサービス
- パブリッククラウド/プライベートクラウド
- ・SaaSサービス
 - ※インターネット経由に必要な機能を必要な分だけ利用できるサービス
- 業種・業務別利用シーン
- ・SaaSサービス連携
- APIサービスによる他サービス連携
- コンシューマ向け、企業向け事例
- API例
- ・デモ
- RPA×AI
- RPA×SNS×AI
- グループウェア内の各種サービス連携
- ・自社でのクラウドサービス連携企画

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

データマネジメント

6 データ保全概説

データ資産から効果的に価値を引き出すためのデータマネジメント方法を理解する。

データマネジメント

- データは資産
- 資産なので置き場所を決めます
- 資産なので盗まれたり、なくなったりしないようにします
- 資産がどこからきて、どこへ行くか把握します
- 資産の価値が減らないように気を配ります
- 資産を監督する人や、そのルールを決めます



DMBOK
体系化

- 【01：データアーキテクチャ】
- ・データが発生してからビジネスに活用されるまでのアーキテクチャ図はあるか？
 - ・アーキテクチャの改善計画はあるか？
- 【02：データストレージとオペレーション（DB）】
- ・ライフサイクル全体に渡ってデータを適切に保存しているか？
 - ・データベース、ストレージの保守運用は十分に安定しているか？
- 【03：データ統合と相互運用性（ETL）】
- ・必要なフォーマットとタイミングでデータを安全に提供できているか？
 - ・データ統合のコストと複雑性を十分に削減できているか？
- 【04：データモデリングとデザイン（ER）】
- ・データの関連性を概念レベル、論理レベル、物理レベルで描けているか？
 - ・データモデルの更新や参照は十分に効率化されているか？

「DMBOKを活用したデータマネジメント」

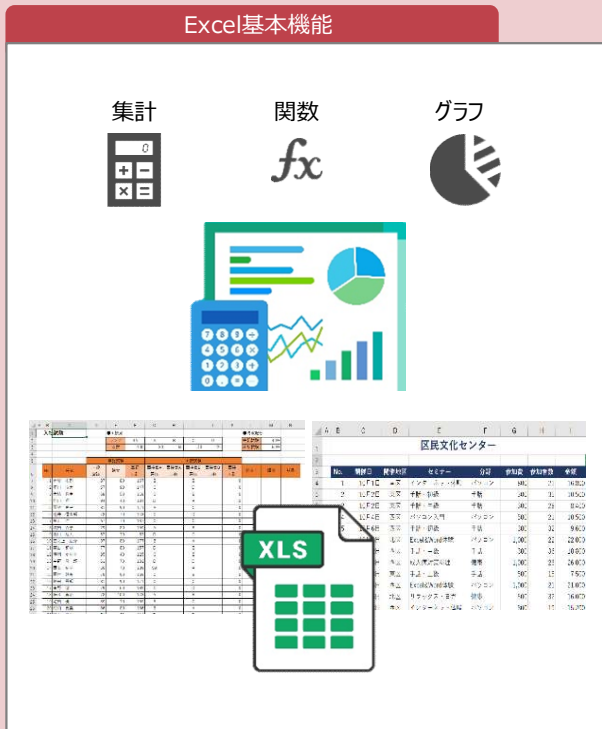
- ・DMBOKとは
- ・データマネジメントの重要性
- ・自社取り組みステータスをチェックリストにて確認
- データアーキテクチャ
- データストレージとオペレーション
- データ統合と相互運用性
- ドキュメントとコンテンツ管理
- データモデリングとデザイン
- マスターデータ管理
- データセキュリティ
- データ品質管理
- データウェアハウジングとビジネスインテリジェンス
- メタデータ管理
- データガバナンス
- ・各ステータスの補足説明
- ・今後のアクション

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

7 Excel基本操作

Excelの基本機能を利用して集計、グラフ化、自動化を行う。



「Excel基本操作」

- ・関数の利用
 - 関数の概要
 - 主要関数の操作
- ・表作成の活用
 - 作成するブックの確認
 - 書式設定、入力規則
- ・グラフの活用
 - 作成するブックの確認
 - 複合グラフの作成
- ・グラフィックの活用
 - SmartArtグラフィックの確認
 - 図形の作成
- ・データベースの活用
 - 操作するデータベースの確認
 - データの集計
- ・ピボットテーブルとピボットグラフの作成
 - ピボットテーブルの作成、編集
 - ピボットグラフの作成
- ・便利な機能
 - ブック間の集計
 - クイック分析の利用

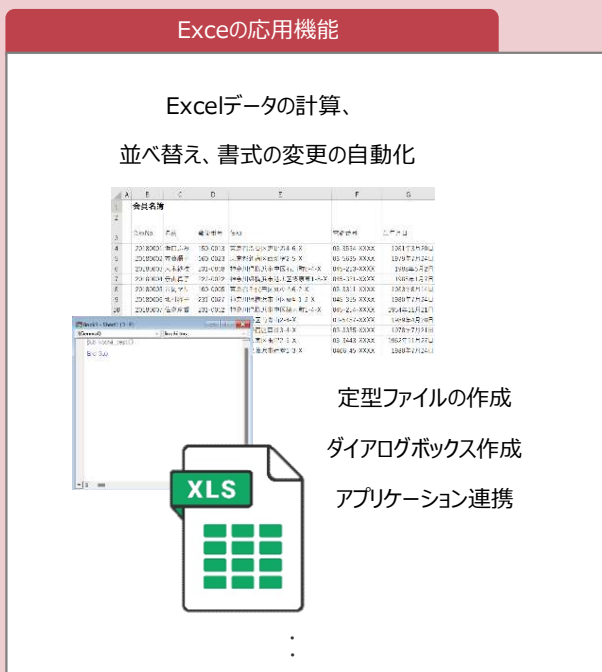
研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：特に必要なし

8 Excel VBA

Excel VBAを利用してExcelマクロの機能を最大限活用するための基礎知識を理解する。



「Excel VBA ハンズオン」

- ・Excel VBA事例
 - データ内容の確認と処理結果
- ・マクロ記録
 - マクロの記録を始める前に
 - マクロを記録する前に注意すること
- ・ブックにマクロの記録・実行
 - マクロを記録・実行する
 - 相対参照でマクロを記録する
 - コントロールボタンにマクロを登録する
 - マクロ有効ブックとして保存する
- ・Excelにマクロを記録・保存
 - 個人用マクロブックとして保存する
 - クイックアクセスツールバーにマクロを登録する
- ・マクロの編集
 - マクロを編集するには
 - ケース事例の編集
 - VBA操作、操作内容の説明

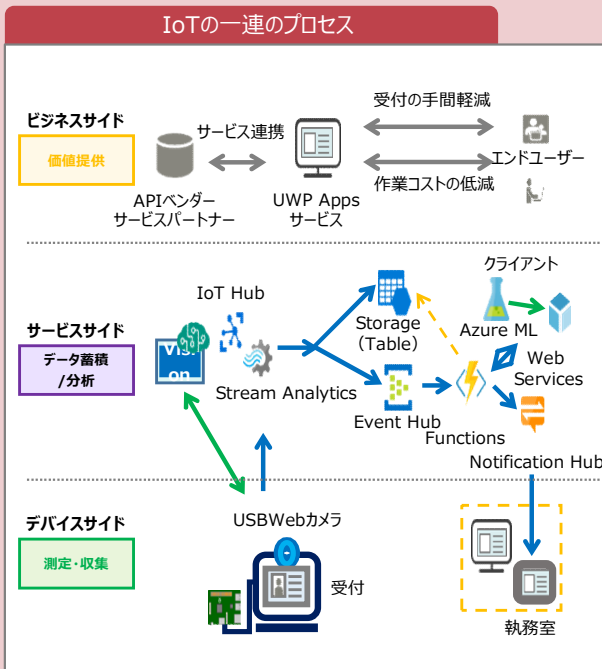
研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：Excel基本機能进行操作できること

9 IoT概説

センサーをネットワークに接続し、収集・蓄積したデータから新たな価値や業務効率化につなげるプロセスや手法を理解する。



「IoTの一連のプロセス」

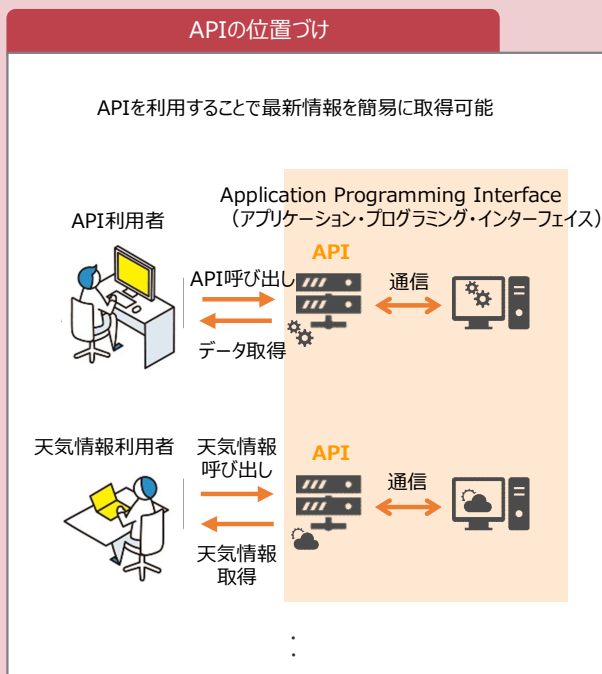
- ・DXにおけるIoT
- IoTのビジネス価値
- IoTビジネスの進め方
- IoTビジネス事例
- ・IoT (Internet of Things) 概要
- IoTとは
- IoTの一連のプロセスにおける考慮事項
- IoTとクラウドコンピューティング
- ・デバイスサイドの実装
- デバイスサイドの実装
- ・サービスサイドでのデータの蓄積
- サービスサイドの実装
- ・サービスサイドでのデータの分析
- サービスサイドの実装
- 機械学習による分析
- ・クラウドサービス上での基本操作
- ・サービスサイドからのフィードバック
- サービスサイドの実装
- エンドユーザーへのフィードバック手法
- 体験操作で作成したプロトタイプシステムのまとめ

研修時間：4時間 [現地/オンライン開催]

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

10 APIデータ取得

APIを利用してデータ収集するための手法やポイントを理解する。



「APIを利用したデータ取得」

- ・APIの概要
- APIとは
- Web APIとは
- APIが注目されている理由
- APIの活用イメージ
- APIへの関わり方～利用側と提供側～
- APIを扱う際の基本用語
- ・APIの利用
- API利用側の位置付け
- APIの利用方法
- APIを利用する際に必要な技術
- ・APIの提供
- API提供側の位置付け
- API提供時の考慮事項
- 外部へAPIを公開する際の考慮事項
- API開発で利用できるツール
- ・自社テーマに即したWeb上のデータをAPI経由で取得ハンズオン

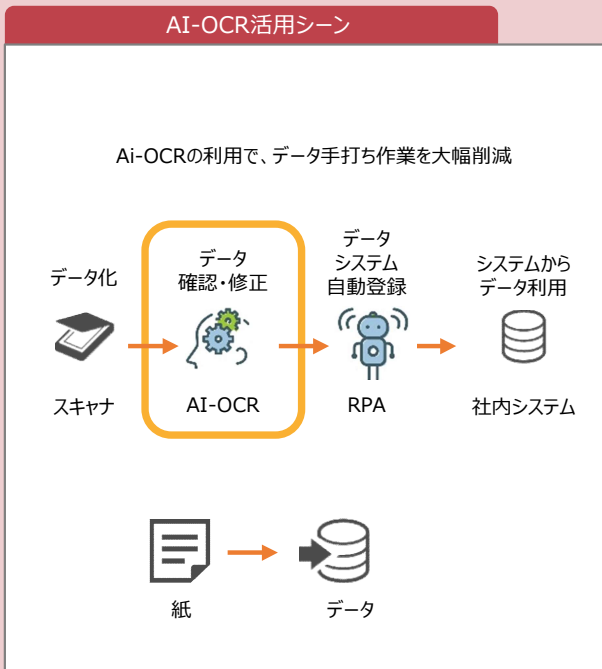
研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

11 AI-OCR データ取得

AI-OCRを利用して紙の帳票類をデータ化するための作業フローやポイントを理解する。



「AI-OCR理解」

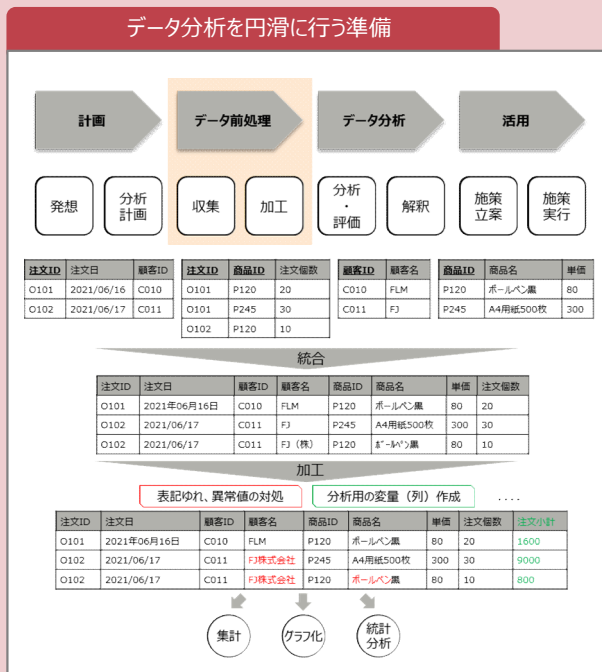
- ・OCRとは
- ・AI-OCRへの進化
- ・AI-OCRの主要機能
- ・AI-OCRの導入設計
 - 利用目的設定
 - 対象業務の抽出
 - Input-Process-Output設計
 - 導入-試行
 - 対象業務改善検証
 - 適用範囲拡充検討-投資検討
- ・自社帳票を利用したAI-OCRの操作ハンズオン
 - 帳票読取り
 - 設定チューニング
 - トライアンドエラー 読取り精度確認

研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

12 Excel前処理

ローデータ（手を加えられていない生データ）等をデータ分析するために整備するための手法やポイントを理解する。



「Excelデータの加工」

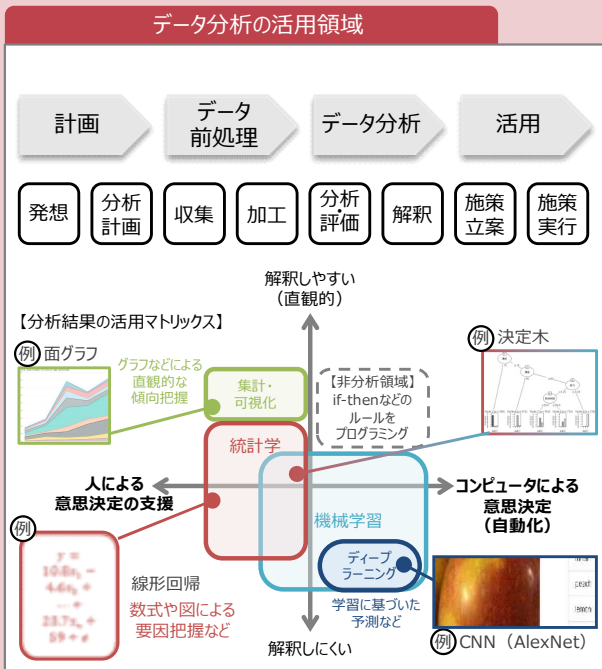
- ・データ構造とデータ型
 - 前処理とデータ分析
 - 構造化データと非構造化データ
- ・データの抽出・集約・整形
 - データの取得
 - データの抽出
 - データの集計・集約
- ・データの変換
 - データの種類・尺度水準
 - 定性データから定量データへの変換
 - 欠損値・外れ値・異常値の処理
 - データ型と欠損値・外れ値・異常値
- ・非構造化データの処理
- ・テキストデータの処理 ※画像データの処理
- ・分析対象データの加工

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

13 Excel分析

Excelを活用したデータ加工・分析の代表的な手法を活用して、分析作業を行う。
※自社テーマでの実践可

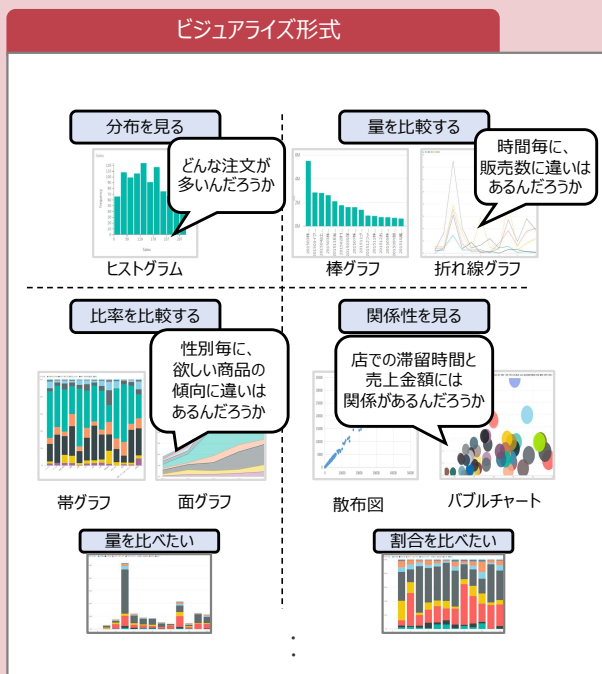


- 「Excelを利用したデータサイエンス」
- ・データサイエンスの全体像
 - データサイエンスの概要
 - データサイエンスを進めるに当たって
 - ・分析手法と評価
 - データ分析のアプローチを決める
 - 代表的な分析アプローチ
 - 分析の前提知識
 - 要約
 - 統計的検定
 - 回帰分析
 - テキストを対象にした分析 テキストマイニング
 - ※参考 クラスティング/分類
 - ・分析事例
 - ・データ利活用に向けた計画
 - データ利活用に向けた計画
 - アイデア発想
 - 分析計画に役立つフレームワーク
 - 分析計画を立てる際の考慮事項
 - データ利活用プロジェクトにおけるマネジメントの観点

研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動
前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

14 BIツール活用

PowerBIの基本機能を利用してデータのビジュアライズ、分析を行う。



- 「BIツールを利用した統計処理」
- ・BIツールとは
 - ・BIツールの比較
 - ・BIツールの利活用
 - データの読み込み
 - データの可視化（集計表、クロス集計表）
 - データの可視化（棒、折れ線、円など）
 - データの可視化（散布図、バブルチャート）
 - ・分析対象データの加工

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動
前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

15 AI活用（画像、テキスト、音声等）

クラウドサービスを活用した機械学習の活用、及び組み合わせ最適化を行う。

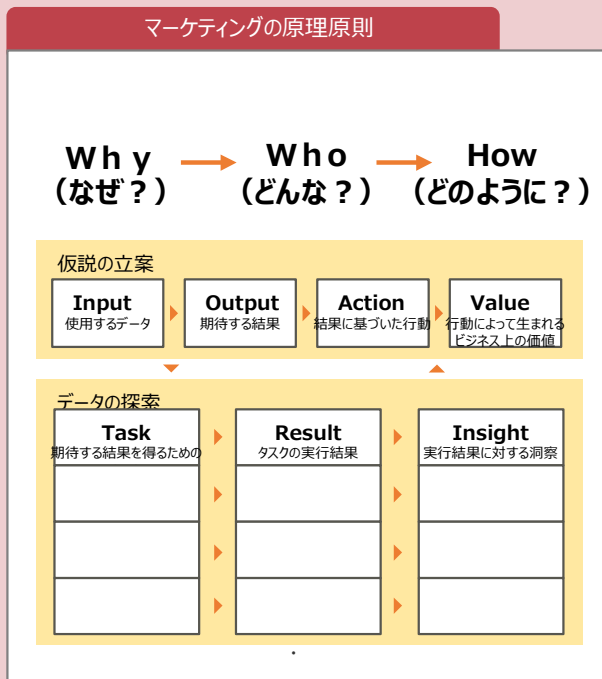
AI活用パターン				
大分類	小分類	概要	インプットイメージ	アウトプットイメージ
画像系	画像認識	画像から、写っているものを識別する		猫
	文字認識	画像から、写っている文字を識別する		かわいい
音声系	音声テキスト化	音声をテキストに変換する		もしもし
	音声合成 (テキスト音声化)	テキストを音声に変換する	もしもし	
テキスト系	多言語翻訳	テキストを翻訳する	もしもし	Hello
	情報抽出	テキストから、構造や特徴的な単語などを抽出する	昨日、雨に降られて大変だった。	昨日、雨、大変

- 「AI活用」
- ・機械学習の概要
 - AIとは
 - AI関連技術の全体像
 - AIと機械学習の関係
 - 機械学習 教師あり学習と教師なし学習
 - 機械学習の代表的な手法
 - 特徴と特徴量
 - ・クラウドベースの機械学習サービス
 - クラウドベースの機械学習サービス
 - ベンダーサービスハンズオン
 - ・回帰分析による数値予測
 - 回帰分析とは
 - 回帰分析の代表的な手法～線形回帰～
 - ・分類によるラベルの予測
 - 分類とは
 - 分類の代表的な手法～ロジスティック回帰～
 - ・クラスタリング
 - クラスタリングとは
 - クラスタリングの代表的な手法

研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]
 ※理解度により時間変動
 前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

16 デジタルマーケティング

デジタルマーケティングから顧客インサイトにリーチする。 ※自社テーマでの実践可



- 「マーケティング入門」
- ・伝統的マーケティング
 - マーケティングに関する予備知識
 - マーケティング戦略の策定
 - その他の代表的なマーケティングのフレームワーク
 - ・デジタルマーケティング
 - デジタルマーケティングとは
 - デジタルマーケティングの変遷
 - デジタルマーケティングの具体例
 - デジタルマーケティングの分析ツール
 - ・DXを実現するためのマーケティング
 - そもそもDXとは
 - DXとマーケティングの関係性
 - 新製品/サービス開発とマーケティングのプロセス変革
 - 新製品/サービス開発の各プロセスで考慮すべき点
 - DXの時代におけるマーケティングの留意点
 - ・自社マーケティング関連データを活用したデータ分析
 - 基本フレームワーク/データの探索

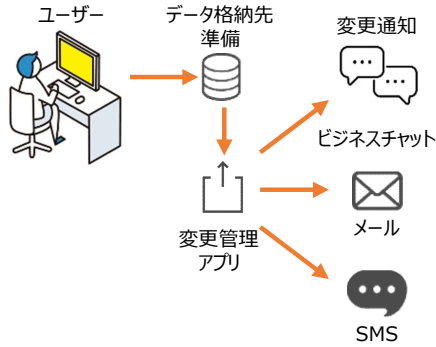
研修時間：2-6時間 [現地/オンライン開催]
 ※理解度により時間変動
 前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

17 ノーコード、ローコード開発

プログラム言語を利用しない、もしくはほぼ利用しなくアプリケーションの開発を行う。
※自社テーマでの実践可

開発アプリの適用シーン

簡易な手法でアプリケーションを開発、運用する



ノーコード開発はソースコードを全く書かずにアプリケーションを開発する手法であり、ローコード開発は少ないソースコードでアプリケーションを開発する手法で構築

「ノーコード、ローコード開発」

- ・ノーコード、ローコード開発とは
- ・ノーコードとローコードの違い
 - ノーコードとは？(NoCode)
 - ローコードとは？(LowCode)
- ・ノーコードのメリット
 - 誰でも開発ができる
 - 開発後のバグ発生が少ない
 - 開発後の拡張が簡単
- ・ローコードのメリット
 - 独自のビジネスロジックが組み込める
 - 既存サービスとの連携による自動化が実現できる
 - 利用用途が限定されない
- ・代表的なノーコード・ローコードツール
- ・ノーコード・ローコードの利用前に注意すべきこと
- ・自社テーマに沿ったアプリ開発をノーコード、ローコードツールで作成

研修時間：2-6時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

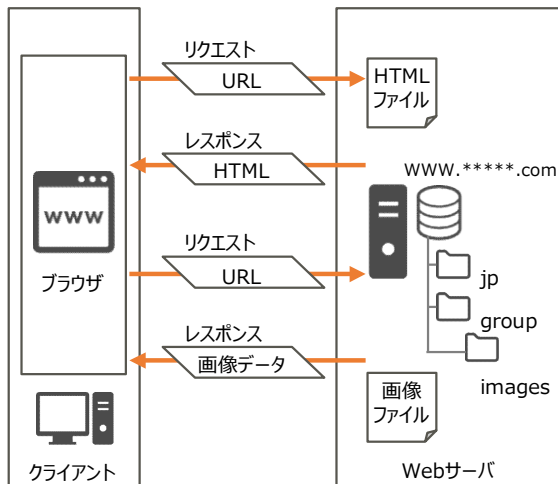
前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

18 HTML

ホームページの構築、運用に欠かせないHTMLの基礎知識を理解する。

HTMLファイルの位置づけ

Webページを作成するために開発された言語
HTMLを利用して自社サイトを更新



「HTMLとCSSによるホームページ作成、更新」

- ・WWW概要
 - WWWとは
 - WWWの構成要素
- ・ホームページの作成方法
- ・HTML文書の作成
 - HTMLとは
 - HTMLの基本文法
 - HTMLファイルの作成方法
 - 文書構造
 - ボディー部のタグ
 - リスト表示
 - 表の作成
 - 画像の表示
 - リンクの指定
 - フォームの作成
- ・CSSによるデザイン設定
 - CSS
 - CSSの基本文法
 - CSSの作成手順

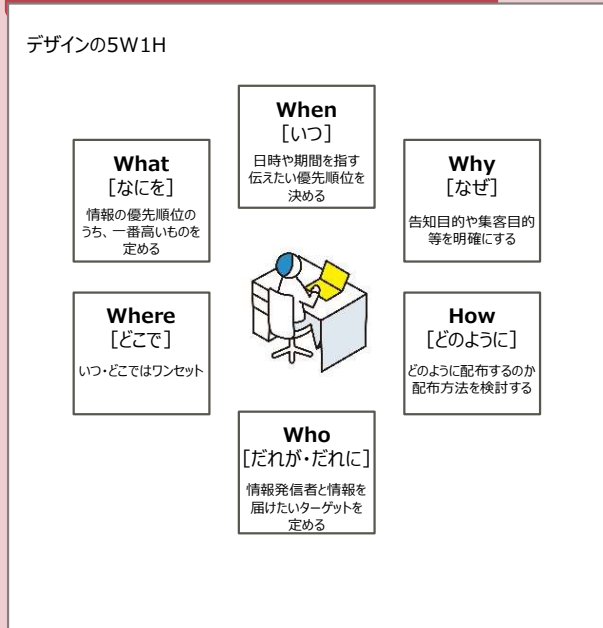
研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]

前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

19 Illustrator

イラストの作成に最適なツールであるイラストレーターの基本操作を理解する。

デザインの基本



「デザインの基本」

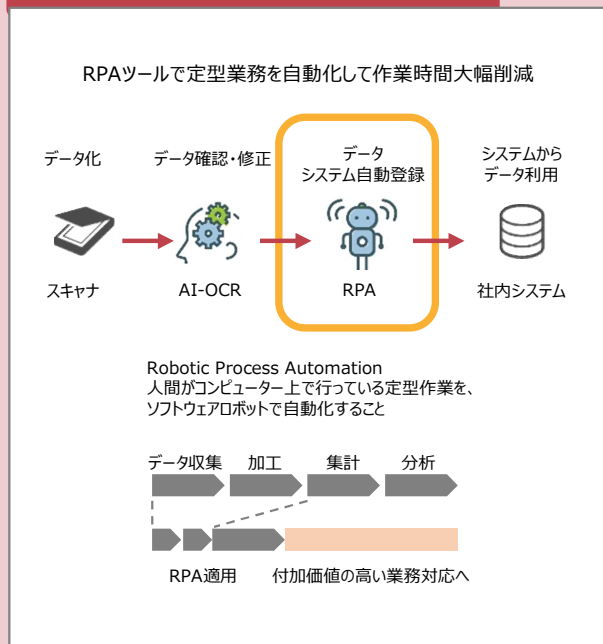
- ・情報を整理する
 - デザインの5W1H
- ・紙面の設計を考える
 - デザインの5W1H
 - レイアウトの6つのキーワード
- ・必要な素材を書き出す
- ・レイアウトの主役を決める
- ・書体を選ぶ
 - 紙面の雰囲気を含む
 - メインとなる書体を選ぶ
- ・色の設計を考える
- ・ブラッシュアップ
- ・作例に使用する情報
- ・自社テーマのチラシ作成

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
 前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

20 RPA

PC上の業務を効率化するためのRPAツールの基本操作を理解する。

RPA利用シーン



「RPA概要」

- ・RPAとは
- ・RPAツールで出来ること
- ・RPAツールの活用シーン
- ・他のRPAツールとの比較
- ・インストール方法
- ・ハンズオン学習
- ・CSVファイルを読み込む
 - フローの作成
 - 画面の見方
 - アクションの配置
 - ループ処理の配置
 - フローの実行
- ・エクセル操作
 - 不要フローの削除
 - 変数の設定
 - フロー複製
- ・デスクトップレコーダーを使う
 - デスクトップレコーダーの実行
 - 操作の記録/再生
- ・その他便利な使い方（ブラウザ操作等）

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
 前提知識：特に必要なし

21 Python

アプリ開発や機械学習分野での利用が顕著なプログラミング言語Pythonを利用する際の基礎知識を理解する。

Pythonの適用シーン

迅速に開発でき、システム間連携にも優れたプログラミング言語

【Pythonの特徴】

- スクリプト言語
- オープンソース
- マルチプラットフォーム対応
- 複数実装の存在
- 各種プログラミング手法への対応

Webアプリケーション

インフラ自動化

機械学習、データ分析etc

- 「Pythonによるデータ分析」
- ・Pythonとデータ分析
 - データ分析でできること/データ分析のプロセス
 - 「Python×データ分析」の特徴
 - 「Python×データ分析」に必要なスキル
 - 「Python×データ分析」に必要な環境
 - 「Python×データ分析」の基本操作
 - ・データを分析するまでの流れ
 - ・ライブラリとは
 - ・データフレームの扱い
 - ・データの集計
 - ・データの加工
 - ・データの要約とグラフ化
 - ・機械学習の基礎
 - データ分析における機械学習の位置づけ
 - 機械学習
 - Pythonにおける機械学習
 - 機械学習の代表的な手法～クラスタリング～
 - 機械学習の代表的な手法～回帰分析～

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
 ※理解度により時間変動
 前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

22 SQL

データベースを操作するためのプログラミング言語SQLを利用する際の基礎知識を理解する。

SQL適用シーン

データベース（DataBase : DB）の操作専用の言語

データベース

システム利用

システム利用者

分析用データの準備

分析用ツール

SQL

言語・ツール	操作	DB操作	DBデータ取得	データ加工	データ集計	グラフ化	統計分析・機械学習
SQL	プログラミング	○	○	○	○	×	×
Excel	GUI	×	△	△	○	○	△
BIツール	GUI	×	○	△	○	○	△
Python	プログラミング	○	○	○	○	○	○
R	プログラミング	○	○	○	○	○	○

- 「SQL基礎」
- ・データベースとは
 - データベースとは
 - ファイルでのデータの管理
 - 表(TABLE)
 - SQL/SQLの位置づけ/SQLの位置づけの特徴
 - ・基本的なデータ検索
 - 表の照会
 - SELECT 文の基本構造
 - 射影
 - 選択
 - 選択した行の並べ替え
 - グループ化
 - ・データ変更
 - データ変更の種類
 - データの追加/更新/削除/副問合せによるデータ変更
 - ・表の定義
 - 表の定義
 - 表の作成
 - 表の削除

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
 ※理解度により時間変動
 前提知識：ITの基礎知識（Windowsやブラウザなどの操作等）を有すること。

23 3DCAD

設計や技術ドキュメントの作成に伴う手作業での作図を支援する3DCADツールの基本操作を理解する。

3Dモデリング概要

3Dモデルの種類

ソリッド	サーフェス	ワイヤーフレーム
中身が詰まったモデル 質量を計算できる	面だけで表現される モデル	頂点と線だけで 表現されるモデル

3Dモデリングの種類

パラメトリック	ダイレクト	スカルプト
数値制御、修正や変更 が用意、作業履歴が 残る	履歴が残らない スピーディなモデリング で直感性高い	粘土をこねる ようなデザイン性の 高い形状可

「3DCAD ハンズオン」

- ・3DCAD概要
 - 3Dモデルの種類
ソリッド/サーフェス/ワイヤーフレーム
 - 3Dモデリングの種類
パラメトリック/ダイレクト/スカルプト
- ・3DCADのツール機能と比較
- ・3DCADツールの主要機能
- ・3DCADツールのクラウド上での開発における留意事項
- ・自社テーマでの2Dデータの3D化ハンズオン
 - サーフェスマデリング
 - ソリッドモデリング

研修時間：2-10時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：2Dでの図面制作経験を有すること。

また、3DCADツールの基本操作ができること。

24 業務定義書作成/サービス定義書

業務とシステムのつながりを洗い出し、最適化した後、ドキュメント化する。

業務フロー作成手順

役割	時間
顧客	
社内	●部●●課
	●部▲課
	■部■課
	XXシステム

作成、入力、確認、保管などの一般的な作業
 判断や意思決定など、作業の結果を受けて流れが分岐するもの
 作業の結果、出力/保管される帳票
 データベース（または単にシステム）

インプット → プロセス → アウトプット
 前のタスク 同位置 → 後のタスク
 判断 Yes/No → 分岐の条件を明記

「業務定義書作成/サービス選定」

- ・業務定義書作成の目的
- ・業務定義書作成のプロセス
- ・成果物一覧
 - 業務機能一覧
 - 業務プロセス 俯瞰図
 - 問題を抱える業務の選択
 - 業務フロー作成（現状）
 - 業務フロー作成（あるべき姿）
 - 課題/問題の整理
 - システム構成図
 - データ設計図
 - 業務ルール表（例外処理）
 - 業務マニュアル（業務機能関係図）

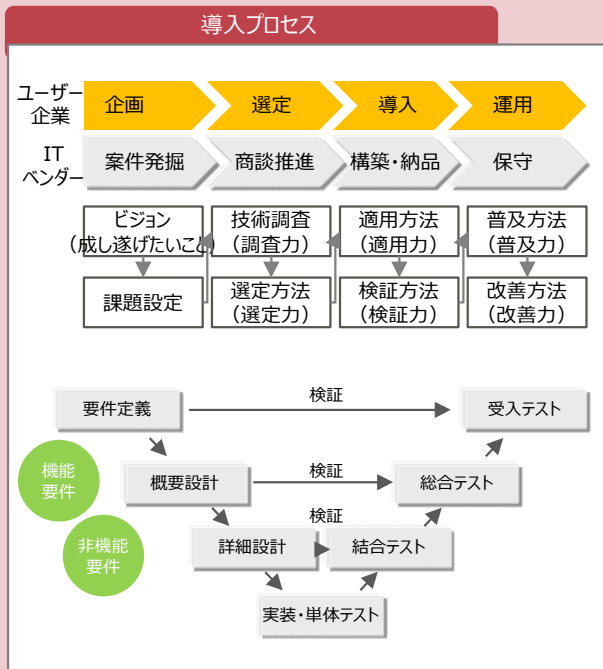
研修時間：2-8時間 [現地/オンライン開催]

※理解度により時間変動

前提知識：特に必要なし

25 新サービス/システム導入/費用対効果

新規サービスの導入プロセスと留意点を併せて理解する。RFI、RFPの基礎情報としても取り扱う。



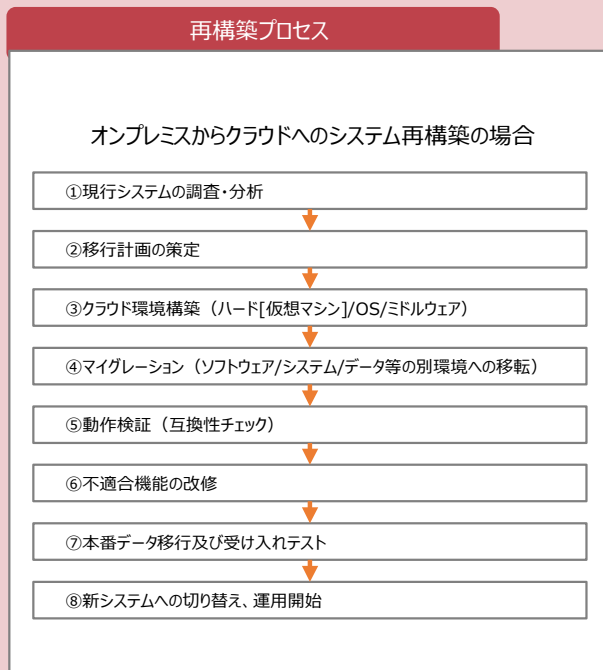
「新サービス・システム導入・運用の現場ポイント」

- ・新サービス・システム導入の流れ
- ・新サービス・システム導入に必要な能力
- ・課題設定
- ・技術調査
- ・選定方法
- ・適用方法/検証方法
※クラウドサービス適用の場合
個別サービスの開発・適用とマネジメント
- ・普及方法
- ・改善方法
- ・プロジェクト活動におけるポイント
- ・自社テーマでのサービス導入
-新サービス・システム導入の流れ
-重要ポイント

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

26 システム再構築

主に、老朽化した社内システムを刷新し、業務のボトルネックを解消するための活動プロセスと留意点を理解する。



「システム再構築の基礎知識」

- ・システム再構築時の指針資料
-システム再構築を成功に導くユーザガイド
-デジタル変革に向けたITモダナイゼーション企画のポイント集
- ・再構築手法 プロセス
- ・自社テーマでの再構築簡易計画
-再構築のテーマ設定
-現行システムの調査/分類
-現行調査
-新システムの要求事項分析
-現行調査
-再構築手法の選択
-再構築手法の決定
-振り返り

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

27 製品開発（デジタル活用）

IoT、AR、VR等のデジタル技術を製品開発に適用する。



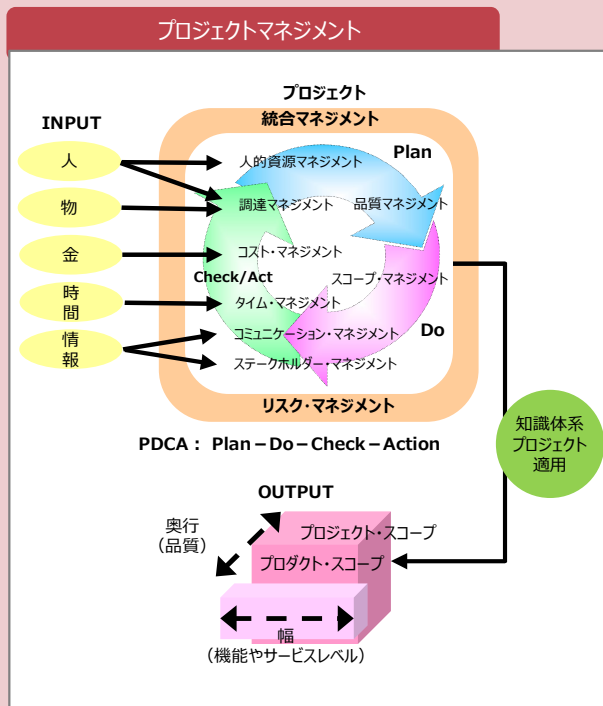
「製品開発 ものづくりDX動向」

- ・デジタル化の進展と合わせて自社活動を未来志向で捉える
- ・ものづくり5つの潮流
 - 経験価値から考えるものづくり
 - エコシステム上で実現するものづくり
 - ソフトウェア主導でものが創られる
 - ものづくりにおける人の役割変化
 - ものづくりでSDGsの達成に貢献する
- ・ものづくりの未来の姿
- ・Whyエコシステム
- ・ものづくりの未来戦略を描く
- ・起こりうる未来
- ・不確定要因の選択
- ・製品開発シナリオの作成
- ・ファクトリーテック動向
 - ファクトリーテックの特徴と動向
 - ファクトリーテックを取り巻く環境
 - 環境を裏付けるデータ
 - 取り組みテーマと活動の方向性
 - 取り組みテーマに対するDX事例

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

28 PMBOK活用

「立上げ」「計画」「実行」「監視・コントロール」「終結」のすべてのプロセスを推進する。



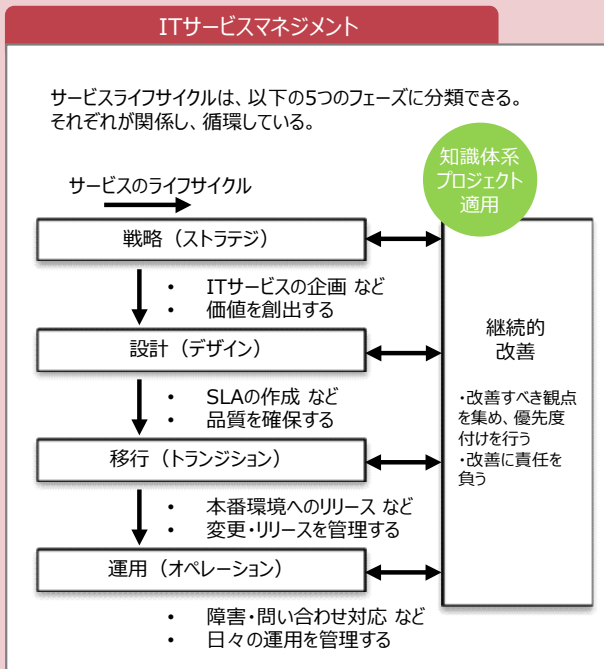
「プロジェクトマネジメント」

- ・プロジェクトマネジメントとは
 - プロジェクトとは
 - プロジェクトマネジメントの重要性
 - PMBOKによるプロジェクトマネジメント
- ・プロジェクトの立上げ
- ・プロジェクトの計画
 - スコープ・マネジメント
 - スケジュール・マネジメント
 - コスト・マネジメント
 - 品質マネジメント
 - 資源マネジメント
 - コミュニケーション・マネジメント
 - リスク・マネジメント
 - 調達マネジメント
 - ステークホルダー・マネジメント
- ・統合マネジメント
- ・プロジェクトの実行
- ・プロジェクトの監視・コントロール
- ・プロジェクトの終結
- ・チェックリストを活用したプロジェクトマネジメント評価

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動
前提知識：特に必要なし

29 ITIL活用

ITシステムのライフサイクルマネジメントを行う。



「ITサービスマネジメント」
 ・ITサービスマネジメントとは
 ・ITILの全体像

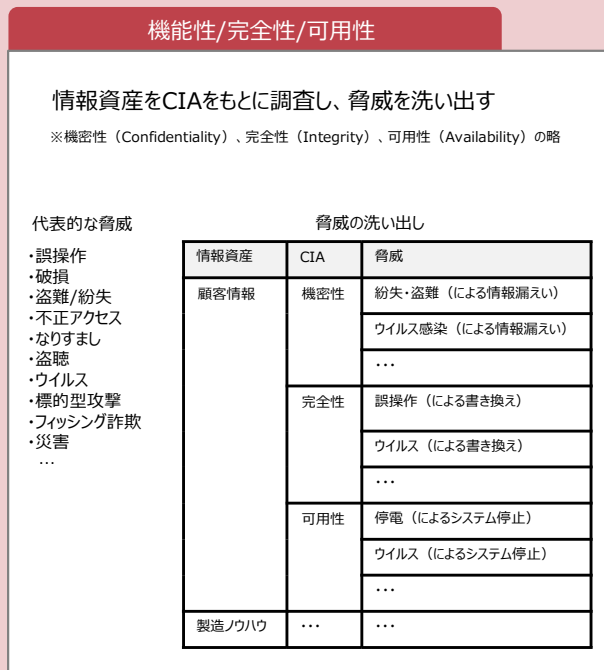
- ITILの誕生と歴史
- 日本におけるITIL普及
- サービスのライフサイクル
- ITILプロセスの全体像
- 理解しておきたい概念
- ITILを適用するメリット
- ・基本的なコンセプト
- ・ITILが成功している理由
- ・ITIL適用のメリット
- ・ITILを適用する際のポイント
- 適用したが効果があがらない?
- ITIL適用のポイント
- まとめ
- ・チェックリストを活用したプロジェクトマネジメント評価

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
 ※理解度により時間変動
 前提知識：特に必要なし

セキュリティ

30 情報セキュリティマネジメント

情報セキュリティに関する広範の知識を保有する。



「情報セキュリティ試験対策講座」

- ・学習内容の全量チェック
- ・苦手分野の抽出
- CIA対象領域に焦点化
- ・苦手分野を中心とした講座
- ・過去問題を網羅的に出題したテスト実施と解説

研修時間：2時間×平均4回 [オンライン開催]
 前提知識：特になし

「情報セキュリティマネジメント試験対策セット」

- ・情報セキュリティマネジメント試験の概要と出題傾向
- ・学習前診断テスト 問題
- ・試験の出題ポイント
- 情報セキュリティマネジメントの計画、情報セキュリティ要求事項に関すること
- 情報セキュリティマネジメントの運用・継続的改善に関すること
- ・学習後診断テスト 問題
- ・模擬テキスト

標準学習時間：80時間 [eラーニング、書籍]
 前提知識：特に必要なし

31 サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ分野の専門知識を保有する。情報処理安全確保支援士資格が該当。

セキュリティ対策フレームワーク

サイバーセキュリティフレームワークを活用した対策例

NIST (National Institute of Standards and Technology : アメリカ国立標準技術研究所) が定義する、サイバーセキュリティのリスク管理にともなう一般的な分類法および手法である「Cybersecurity Framework (サイバーセキュリティフレームワーク)」を元にしたサイバーセキュリティ対策



- 「過去問題対策（午前・午後）」
- ・試験対策を中心としたサイバーセキュリティ学習
 - ・令和3年度 情報処理安全確保支援士
 - ・令和2年度 情報処理安全確保支援士
午前Ⅱ 問題 ※IPAサイトより
 - ・令和2年度 情報処理安全確保支援士
午前Ⅱ 解答用紙
 - ・令和2年度10月 午前Ⅱ 解答解説

研修時間：135時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

- 「過去問題対策（午後専用）」
- ・試験対策を中心としたサイバーセキュリティ学習
上記同様

研修時間：105時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

32 全社教育

デジタル化促進のモチベーションを高め、プロジェクト活動への認知、理解を促す。

現状とあるべき姿を見据える



評価軸	評価項目	次のアクション
組織変革	組織的能動力/ 行動量・質	組織パフォーマンスの 更なる向上
価値創出	試行力/ 成果創出力	より高みの成果と 成長
システム/データ 変革	データ収集/ 整備/運用	データ統合/ データ価値創出

- 「デジタル化促進活動の全社活動について」
- ・デジタル化促進活動を推進する目的
 - ・劇的なデジタル化の進展
 - ・各業界で起こっているデジタル化による変化
 - ・自社を取り巻く環境変化と自社課題
 - ・課題解決に向けた活動一覧
 - ・活動スケジュール
 - ・重要な活動時の配慮事項

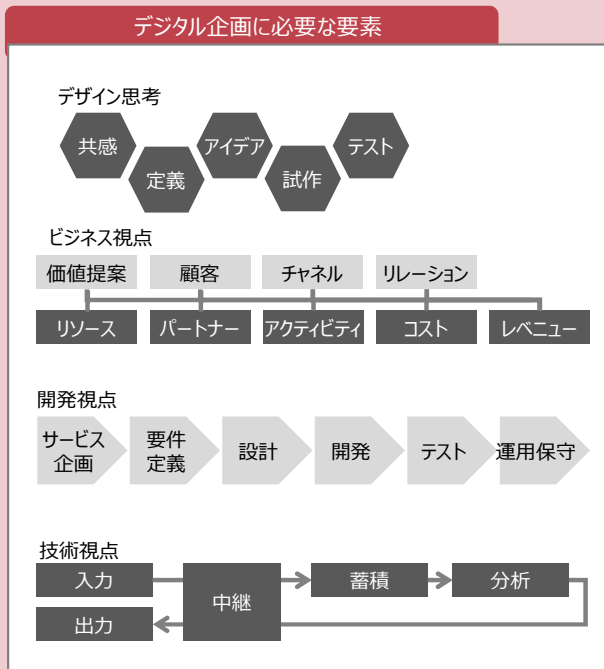
研修時間：1時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

- 「活動状況の振り返りと今後の展望」
- ・デジタル化促進活動の振り返り
 - ・客観視点でのフィードバック
 - 組織変革
 - 価値創出
 - システム/データ変革
 - ・今後の展望

研修時間：1時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

33 デジタル企画・デザイン思考

学習内容を総動員して、自社の課題解決または新規価値創出に向けたデジタル企画を立案する。

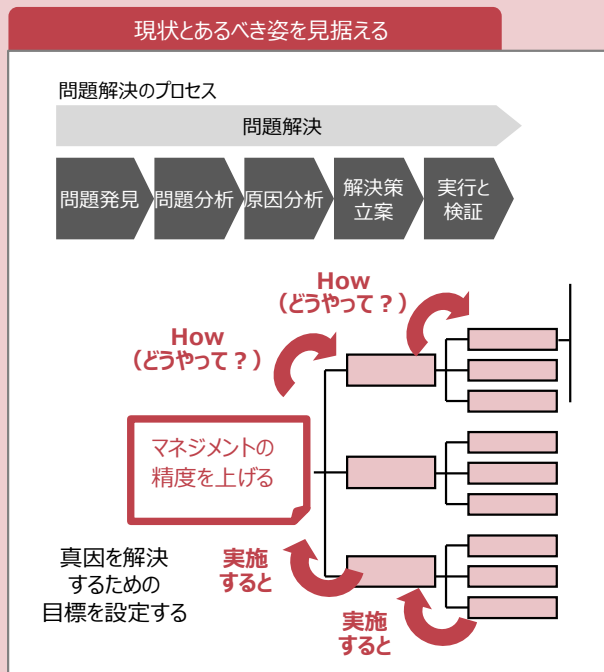


- 「デジタル企画」
- ・プロジェクト計画書の振り返り
 - ・学習内容/業務適用状況
 - ・デジタル企画とデザイン思考
 - 共感
 - 定義
 - アイデア
 - 試作
 - テスト
 - ・学習内容を総合的な活用したデジタル企画
 - ・企画フェーズ
 - ・選定フェーズ
 - ・導入フェーズ
 - ・運用フェーズ
 - ・自社テーマのデジタル基軸のデジタルサービス企画
簡易サマリ化

研修時間：135時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

34 問題解決力

「問題発見」「問題分析」「原因分析」「解決策立案」「実行・検証」のすべてのプロセスを推進する。

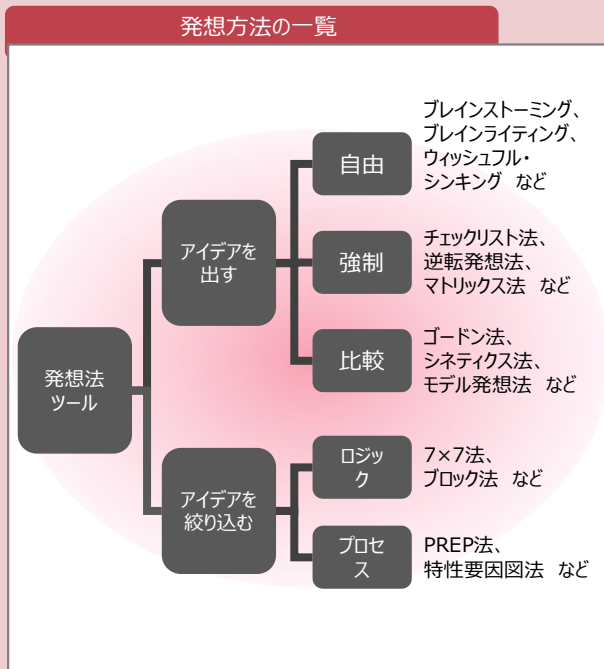


- 「問題解決」
- ・問題の定義
 - ・問題の種類
 - ・問題の性質
 - ・問題解決のプロセス
 - 仮説思考
 - ゼロベース思考
 - フレームワーク思考
 - ・問題の具体的な識別
 - ・問題分析
 - ・原因分析
 - ・解決策立案
 - ・自社の潜在化された問題可視化
 - 問題発見、影響度調査
 - 問題に対する原因分析
 - 解決策の立案/評価

研修時間：2-4時間 [現地/オンライン開催]
※理解度により時間変動
前提知識：特に必要なし

35 創造力の強化

主要な発想手法の理解及び他者とのコラボレーションを通じて創造力を高める。



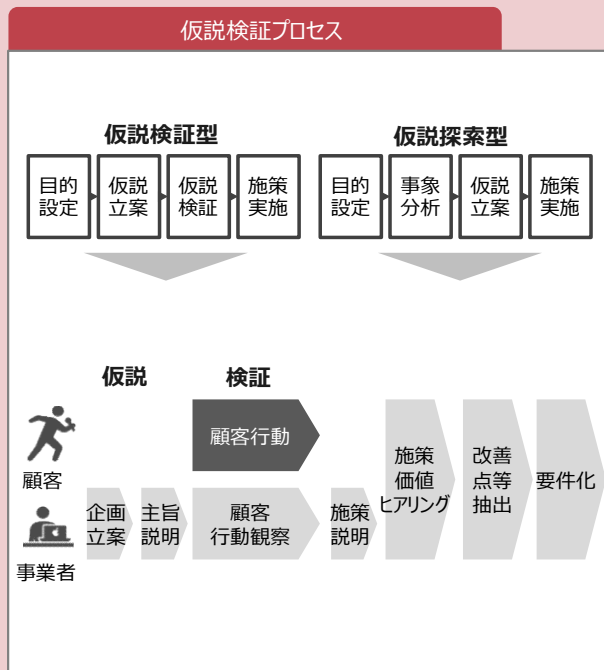
「創造力/発想力の強化」

- ・創造力/発想力とは
- ・創造力/発想力を活性化させるには
- ・創造力/発想力を鍛えるには
- ・思考をサポートするフレームワーク
- ウィッシュフル・シンキング
- チェックリスト法
- 逆転発想法
- モデル発想法
- ・デジタル化における発想スタイル
- ・デジタル化における発想適用シーン
- ・価値デザインツール

研修時間：135時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

36 仮説検証力

デジタル化促進活動の基本行動である仮説検証の精度を高める。



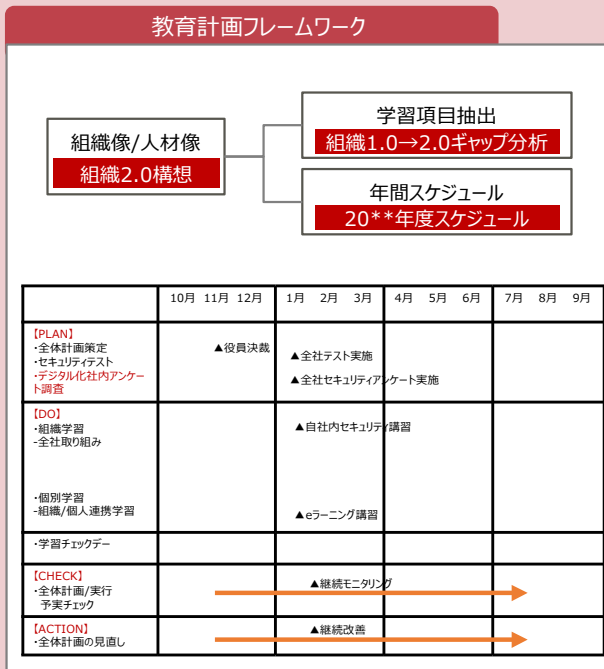
「仮説検証力強化」

- ・仮説検証力とは
- 仮説検証型
- 仮説探索型
- 仮説検証事例
- 仮説の精度を高める
- ・仮説検証力の業務適用
- ・実践テーマ適用
- ・問題軸のアプローチ
- ・共感軸のアプローチ
- 価値創出
- スケッチ
- テスト
- ・仮説検証時の注意点

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
前提知識：特に必要なし

37 自社教育計画立案

個と組織の成長を促すための教育計画を立案する。



「自社教育計画立案」

- ・人材育成計画の概観
 - 組織像/人材像
 - 学習項目抽出
 - 年間スケジュール/学習内容展開
- ・組織像/人材像
 - 組織能力の現状
 - ありたい組織像
 - 組織像実現のために必要な個人能力
- ・学習項目抽出
 - 組織学習項目抽出
 - 個別学習項目抽出
- ・学習網目の年間スケジュールへの展開
 - PDCAモデルの年間計画立案

研修時間：2時間 [現地/オンライン開催]
 前提知識：特に必要なし

メンタリング支援概要

デジタル化促進活動の推進力を高めるために、対象企業に対して「人材投資」「デジタル技術投資」「資金調達」の3つに関して各専門機関が助言や指導を意味するメンタリングを実施しました。

メンタリング支援概要



モデル企業のデジタル化促進活動には、各専門機関が3つのメニューで伴走支援を行いました。企業単独でのデジタル化が難しい場合は、メンターと呼ばれる方々に支援依頼行くと効果的です。

行政/専門機関/IT事業者等 支援メニュー

①人材投資

- 時代感、トレンド等をインプットし、マイルド醸成
- リーンスタートアップ手法等プロジェクト推進手法
- AI/BI/Cloudなどの技術や主要ツールの概念理解

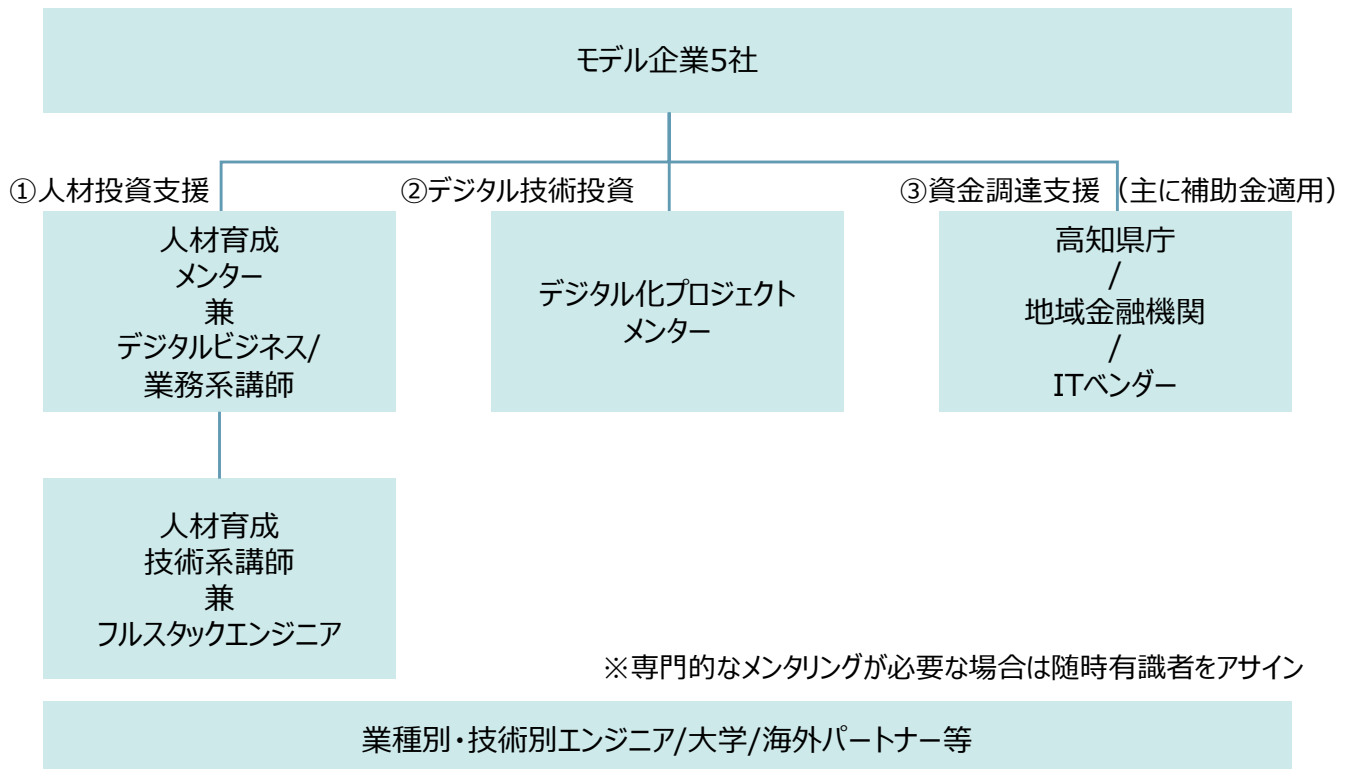
②デジタル技術投資

- オンラインミーティング/ChatOps/プロジェクト管理等、デジタルツールの活用
- データプラットフォームの導入、構築、運用
- AI/BIなどの実装ツール導入

③資金調達

- 本事業での少額支援
- 補助金活用-IT導入補助金
-ものづくり補助金等
- 地域金融機関支援

メンタリング体制（主要メンバー）



デジタルビジネス/業務系 人材育成メンタリング内容

デジタル化促進活動を自走させていくために必要なデジタルビジネス、業務へのデジタル技術適用に関する教育及び随時のビジネス/業務系QAフォローを行います。

(デジタルリテラシー、プロジェクトマネジメント、ビジネススキル、ストラテジー、セキュリティ等担当)

デジタルビジネス/業務系 人材育成メンタリング ポイント

デジタル技術を活用して「課題解決」「価値創出」を行うことに焦点化したメンタリングを実施。全ての学習がこの2点につながる。また、プロジェクトに関わるメンバーとの「合意形成」がチーム学習には欠かせないため、ファシリテーションを意識した場づくりを行う。

●課題解決

業務改善に関連する学習テーマは、全て課題解決プロセスに紐づける。現場の困り事を展開することで、実践知が獲得できるよう学習支援を進める。

・課題発見

困り事を課題化して、課題一覧表にリスト化する（プロジェクト管理ツールと連動）

・課題分析

課題一覧表の中から緊急度、影響度、難易度等複数の軸を持って、対処する課題に優先順位をつける

・原因分析

優先度の高い課題を「Why思考」することで根本的な原因を特定する

・解決策立案

根本原因に対する有効な打ち手をデジタル技術、サービスを起点に発想もしくは調査する

・実行/検証

選定した技術やサービスを実際の業務に簡易適用し、効果やリスクを検証する

●価値創出

新規商品・サービス、事業創出に関連する学習テーマは、全て価値創出プロセスに紐づける。現場の共感が集まるテーマを基軸にデザイン思考プロセスをサイクリングすることで、実践知が獲得できるよう学習支援を進める。

・共感

新しさは共感から始まることが多い。対話や調査から関係者の共感度が高いテーマを探求、特定する

・課題定義

共感度の高いテーマに対して、具体的にどのような困り事やあったらいいながあるか観察と対話、及びデータ分析から抽出する

・アイディエーション

抽出した課題にフィットしたアイデアを発想し、スケッチにまとめる

・プロトタイプ

スケッチにまとめた絵を具体的に動作するものに転換し、関係者に利用してもらう

・テスト

関係者利用後のフィードバックを収集し、商品・サービスの改善につなげる

●合意形成

Project Based Learningはチーム学習が基本のため、チームとしての実践知が獲得できるよう学習支援を進める。

・対話

個々人が考えていること、感じていることを言葉で表出させるよう、問いかけを行う

・まとめ

表出された言葉をフレームワーク上に展開してビジュアライズすることで理解が促進される

・合意

理解が得られた状態で、全員の総意を改めて対話しコンセンサスをとる

デジタル技術系 人材育成メンタリング内容

デジタル化促進活動を自走させていくために必要なデジタル技術全般の技術教育及び随時の技術的なQAフォローを行います。（デジタルリテラシー、テクノロジー、データマネジメント、データサイエンス、セキュリティ等担当）

デジタル技術系 人材育成メンタリング ポイント

デジタル技術の利用用途や仕組み、技術が持つ価値（技術で人の行動がどのようにポジティブに変革されるか）に焦点化したメンタリングを実施。全ての学習がこの技術的価値の理解につながる。また、技術の適用には、その適用先の状況を正しく理解しておく必要があり、三現主義を筆頭に必須の行動様式を意識した学習支援を行う。

●三現主義

・現場

相手の業務・課題に寄せる。

IT技術は抽象度が高いものも多く、特に最初は敷居が高く感じられてしまう。

ITと身近なものや業務との接点をつくることで、IT活用を身近なものとして捉えやすくなる。

・現物

サンプルやプロトタイプをつくる。

ドキュメントだけではイメージをつかみづらく、認識の齟齬が発生することがある。

実際のデータを使用して、サンプルやプロトタイプをつくることで、共通認識を持ちやすくなる。

・現実

理想的なITシステムの構成や活用を描きつつ、現実の企業に合わせる。

特に中小企業では、現行システム、予算、ITスキルなどが制約となり、あるべき姿をそのまま適用できないことが多い。

そのため、これらの制約を踏まえて現実的に実装・運用できる方法をともに考える。

●データ起点

ITを含むデジタル技術の活用においては、データが鍵となる。

Excelで管理しているデータでは、整合性や連携性が考慮されていないこともあり、システム化の障壁になりがちである。

そのため、現状の利用と将来的な分析・活用の両面を踏まえたデータの持ち方を考慮・提示する。

●非機能要件

利便性に加え、特に拡張性とセキュリティを考える。

現行の業務を中心に考えると、先々の業務変化に対応しづらいこと、認証を中心としたセキュリティ上の脆弱性が生まれやすいことがある。

そのため、利用者が継続的に安全に利用・運用できるシステム構成・活用を考慮・提示する。

●自走支援

ユーザー企業がITで自立できることを目標として支援する。

ITの民主化の流れにより、たとえばノーコードのRPAやiPaaSなど、ユーザー企業でもIT活用をしやすい環境になっている。

支援側も既知の技術にとらわれず、新しい技術を調査・検証し、活用を提示する。

デジタル化プロジェクト メンタリング内容

デジタル化促進活動の道しるべとなる課題抽出、プロジェクト計画策定、計画書作成、プロジェクト管理のフォローと、プロジェクト管理・推進に必要な各種ツール・システム・フレームワークなどの助言を行います。

デジタル化プロジェクト メンタリングポイント

課題ドリブンのプロジェクト推進を図るべく、課題抽出とプロジェクト計画の策定に相応の時間を割くことが肝心である。課題が一通りまとり次第、計画書の作成と、計画推進の管理が求められる。管理手法として、クラウドなどデジタルツールを用い実施することで、DX1.0にあたるコミュニケーションのデジタル化を同時に実現することができる。デジタルを日常的に用いる習慣化を目指す。

●課題抽出・整理

課題整理にはフレームワークを用い、課題周辺のデータや解決の手段となるテクノロジーアクションの選択肢まで整理する。また、テクノロジーの整理にはプロフェッショナルの助言が必要なため、適宜懇意にしているベンダーなどに参加してもらって一助とする。

●プロジェクト計画策定

課題とその解決アクションについての整理を終えたら、それをプロジェクト計画として落とし込んでいく。計画には以下の項目を必ず盛り込む。

□ プロジェクト計画

- ✓ 課題 & 解決アクションの一覧
- ✓ ロードマップ（2年～5年の中期計画）
- ✓ スコープの整理
 - ✓ プロジェクト推進体制（全体の責任者を明記）
 - ✓ 担当者の決定（各解決アクションのプロジェクトマネージャー＝責任者）
 - ✓ スケジュール & タスク（直近1年で実施対象となるアクションはどれか）
 - ✓ 人材育成計画
 - ✓ プロジェクトで使用する管理ツール等（プロジェクト管理ツールなど）
 - ✓ その他補助金等の情報（コスト最小化の施策）

●プロジェクト計画書の作成 & 共通認識

前項がまとり次第、それを資料化してプロジェクトメンバーや、場合によっては社員やパートナーに共有し共通認識を持つ。

●プロジェクト管理

プロジェクト管理にはasana、backlog等、デジタルのプロジェクト管理ツールを用い、関係者の誰もが、いつでもすべての進捗を確認・共有できる運営体制とする。

●コミュニケーション

日々のやりとりにはSlackなどChatOpsを用い常時ログが残る形でのコミュニケーションを意識する。また基本的にOpen Channelを用いることでブラックボックスをなくし透明性を担保する。定例ミーティングはZoom等のリモート会議システムを用い、ChatOpsツールで議事録を共有しながら、音声だけでなくテキストでもロギングを実施し、プロジェクトメンバー全員がいつでも振り返りを実施できるよう推進する。

資金調達支援 メンタリング内容

デジタル化促進活動を自走させていくために必要な資金調達に関する随時の情報提供や手続きや制度に関するQAフォローを行いました。

資金調達支援 本事業期間内紹介補助金等一覧

支援策	所管
ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金 （ものづくり補助金）	経済産業省
サービス等生産性向上IT導入支援事業費補助金 （IT導入補助金）	
小規模事業者持続化補助金	
事業再構築補助金	
働き方改革推進支援助成金（テレワークコース）	厚生労働省
新事業チャレンジ支援事業費補助金	高知県
事業戦略等推進事業費補助金	

成果発表会

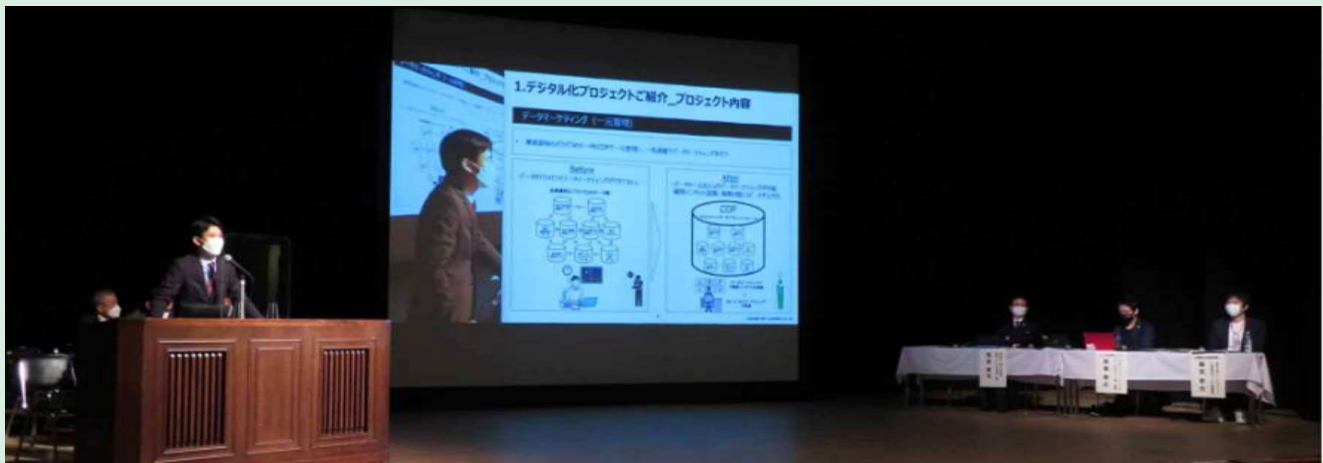
デジタル化促進活動の初年度のプロジェクト成果を
見える化し、その成果を県内企業へ発信しました。

中小企業デジタル化促進モデル事例
各社の取り組みを発表

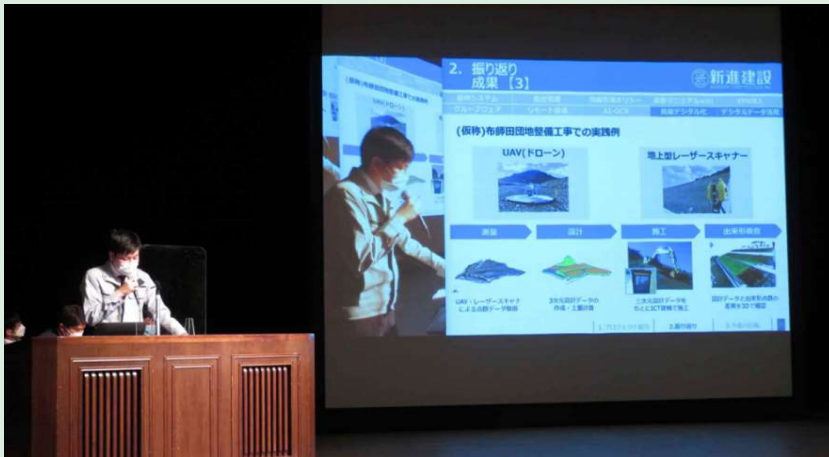


2022年3月18日、高知県立県民文化ホールにて成果発表会を開催。モデル企業5社が1年間の取り組み内容について発表しました。デジタル技術を活用した業務の効率化や、データを活用したマーケティング、顧客満足度や従業員満足度向上に向けたデジタル技術の活用など、様々な内容が語られました。





各社の取り組みを発表



発表と同時並行で行われた、グラフィックレコーディング。発表内容がいきいきと描かれています。





終わりに

社会を取り巻く環境が劇的に変化し続ける時代において、中小企業の活動に画一的な成功モデルはなく、探究を繰り返しながら自社に適したスタイルを獲得していくことが求められます。

本書では、DX（デジタルトランスフォーメーション）の文脈における変革ノウハウを整理しています。デジタル化促進活動により、自社の変革に挑戦される方の活動支援の一助になりましたら幸いです。

「DX推進ハンドブック」

2022年3月31日（初版）

Copyright © 高知県

- ・製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
- ・本資料に記載されている製品名などには、必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。
- ・本資料に掲載されている会社名は、それぞれ各社・各団体の商標または登録商標です。
- ・本資料の内容について正確な記述につとめましたが、掲載内容に対して何らかの保証をするものではなく、内容やサンプルに基づきいかなる運用結果に関してもいっさいの責任を負いません。
- ・画像データ（イラスト、アイコン含む）の著作権は発行元にあります。なお掲載データの一部は、以下サイトよりダウンロードしております。

PIXTA	https://www.pixta.jp/
ICOON MONO	http://icoon-mono.com/
Loose Drawing	https://loosedrawing.com/
Icon rainbow	https://icon-rainbow.com/
FLAT ICON DESIGN	http://flat-icon-design.com/
ヒューマンピクトグラム	https://pictogram2.com/
ソコスト	https://soco-st.com/
ちようどいいイラスト	https://tyoudoii-illust.com/

